

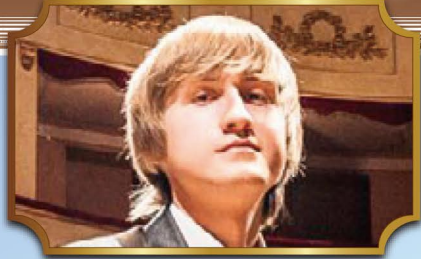
あなたのお気に入りピアニストを見つけよう!

お問合せ
 ジャパン・アーツぴあ
 03-5774-3040



ジョージ・リー

6月6日(月)19:00 浜離宮朝日ホール



ドミトリー・マスレエフ

6月9日(木)19:00 東京芸術劇場コンサートホール
 でバシュメット&モスクワ・ソロイスツと共演/6月
 13日(月)19:00 浜離宮朝日ホールでリサイタル



アレクサンダー・ロマノフスキー

7月5日(火)19:00 紀尾井ホール



アレクサンダー・ガヴリリョク

7月14日(木)19:00
 東京オペラシティコンサートホール

出身	米国、ボストン	ロシアのウラン・ウデ	ウクライナ	ウクライナ
今回の 聴きどころ	「ヴァリエティを持たせて、お客様がそれぞれにジャーニーを辿っていただけるようなものになりたい」と意気込むジョージ・リーがリサイタルに選んだ作品は、ハイドン、ショパン、ラフマニノフそしてリストから。テミルカーノフ指揮サント・フィル大阪公演では、チャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番を演奏します。	待望のリサイタルの他、バシュメット&モスクワ・ソロイスツとの共演でのバッハ:ピアノ協奏曲第1番も楽しみなマスレエフ。チャイコフスキー国際コンクール覇者のマスレエフは、母国ロシアの作品とリストが大好き。ピュアな音で情感豊かに奏でる、チャイコフスキー「18の小品より」は聴き逃せません。	日本初披露となる、シューマンの「謝肉祭」とムソルグスキーの「展覧会の絵」を選んだ理由は、二つの作品の共通性と対照性を考えてのこと。いずれも“作曲家が自分の目で何かを描く”という共通性があるという。特に「展覧会の絵」は、絵画というよりも、この音楽がすばらしい響きを持っているので、どう響かかを大切に演奏したいそうです。	世界を飛翔する現代最高のヴィルトゥオーゾ。2013年に録音した「展覧会の絵」は、2005年ぶりの日本での演奏となる。10年の時を経た、ガヴリリョクの更なる成熟に出逢える一夜。
最近の活躍	第15回チャイコフスキー国際コンクールでシルバー・メダル獲得以来、引く手あまたのリーは、ゲルギエフ指揮マリインスキー歌劇場管弦楽団と、プロコフィエフのピアノ協奏曲第1番を演奏。NYタイムスからは「若い奔放さと完璧なコマンド」に統合された演奏と絶賛された。	ルール・ピアノ・フェスティバル、バーデン＝バーデン音楽祭に出演。ソウル、ミラノ、ブリュッセルでのリサイタルを予定。	東京・春・音楽祭ではウェールズ室内弦楽四重奏団と共演。5月末にはウルバンスキ指揮東京交響楽団との共演でプロコフィエフ:ピアノ協奏曲第3番を演奏。難曲といわれる曲を、既に手中に収めたかのように美しく艶やかに披露し各地で絶賛されました。気品ある佇まいで、徐々にファンが増えています。	今後、ゲルギエフ&ロッテルダムフィル、インキネン指揮、ヘンゲルブロック指揮ロイヤル・コンサートヘボウ管などと共演予定。
担当者が教える 注目のポイント!	天性の音楽家。楽譜を深く読み込み、独自の音色と、自らの感性を加えて表現できる、真のアーティスト。音楽に向かう真摯な姿勢、すべてを包み込む温かい人間性、文学など他分野への貪欲な姿勢は、将来の大成を確信させます。	チャイコフスキー国際ピアノコンクールが生んだ、シンデレラ・ボーイ。厳しい環境下で行われる国際コンクール。マスレエフは会期中に実母を失うという悲劇にあいながらも、不退転の決意で臨み、見事に栄光を勝ち取りました。強い意志と精神力こそ、世界で活躍するアーティストに必要な条件。マスレエフは確実にそれを持っています。	17歳でブゾーニ・コンクール優勝以来、着実に階段を昇るロマノフスキーは、ひとたび演奏を終えると目尻の優しい若きジェントルマン。共演するひと皆に好かれています。今回お贈りするシューマン「謝肉祭」とムソルグスキー「展覧会の絵」という対照的な作品は、亡きジュリーニに「途方もない才能」と形容されたロマノフスキーならではの魅力溢れる演奏になるでしょう。	16歳からたびたび来日を重ねるガヴリリョク。代名詞である超絶的な技巧はそのままだ、近年は、家族、子供にも恵まれ、人間的な成長とともに音楽的にも成熟し、今や名実ともに世界のトップアーティストです。